「地名」は生きている言語の化石――文化遺産。
明治末から昭和終戦後までに刊行された稀覯文献を復刻。

近代地名研究資料集

全6巻　池田　末則 編・解説

クレス出版

地名研究資料の出版について

奈良・橿原市住居表示審議会委員（文博）
日本地名学研究所所長
池田末則

地名の発生は人間の言語生活と同時であることから、地名は生きている言語の化石―文化遺産といっても過言ではない。

日本文化の発祥地たる奈良県（大和国）の地名は、記・紀・万葉など、わが国最古の文献に数多く残されてきた。古来、「異なる苗字称号の大方は郷里の地名なり」と伝え、「地名と姓氏は一体のもの」とする論もある。姓氏の殆どは地名に因縁しているといえる。飛鳥井・葛城・高市・曽我・柿本・阿部・菅原・藤原など、大和の地名→人名→地名の図式の成り立つ例も少なくはない。和銅六年（七一三）の官命によって、地名には好字を、あるいは二字化することになった。

地名学の研究は、古風土記にもみられたように、現在の考古学以上に関心を持ち、一つの有力な方法として、地名によって古代史の解明を試みられていた。むしろ、地名無くして歴史は語られなかった。

さきに柳田国男は、「地名が千年以上の治乱盛衰を貫いて、切れ間もなく活きて働き続けてきた実例を、大和のように顕著に又数多く持っている地方は、内外を通して稀なのである。将来、地名研究の新機運が大和の地に興らんことを期し念じている…大和の地名は興味ある実験題目である」と述べられた（『定本・柳田国男集』第二〇巻）。柳田の文章に鼓舞された中野文彦（奈良県初代教育委員長・『校本・風葉和歌集』著者）は、一九四一年、「日本地名学研究所」を創設、学術機関誌『地名学研究』を公刊、関係文献の調査、地名の発生時期、用字の改変、伝承過程など、地名文化の法則的な事象の研究に努めてきた。研究所の賛同・会員には柳田国男・滝川政次郎・新村出・金田一京助・知里真志保・一志茂樹・鏡味完二・小栗忠七・野間光辰・宮本常一・W・A・グロータス・末永雅雄・山田秀三・中村直勝・松尾四郎らの諸先学を加え、同好者三百余名をかぞえた（一九五九）。しかしながら、現在、斯界では地名研究に対しては、余りにも狭量である。それは日本の学問の貧困を示すものであるが、「地名研究会」の地道な調査グループが、全国的に漸次組織されつつあることは欣ばしい現象である。

今や日本は全国的に市町村合併問題が惹起し、一地名の制定にも異論百出、その結末は極めて容易ではない。本年四月、奈良市に合併した梅渓の名所「月瀬村」には近世以来、数多くの文人墨客が来遊・紀行している。かつては頼山陽・斎藤拙堂・梁川星巌・篠崎小竹・川路聖謨・松浦武四郎・近藤芳樹・藤沢南岳・天田愚庵・富岡鉄斎・伴林光平・山県有朋・長塚節・田山花袋・大町桂月・永井荷風・橋本関雪・佐々木信綱・金田一京助・谷崎潤一郎ら、二百余人に垂（なんな）んとする有名人士は、「月瀬（つきせ）」の村名に思いを寄せ、「月ノ瀬（つきのせ）」「月ヶ瀬（つきがせ）」「五月川（さつき）」などの詩文や墨跡を遺した。地名の風土と文化性に異常な関心を示した一例にすぎない。

例えば、明治時代の地名辞書・研究書の類は、富本時次郎の大著『帝国地名大辞典』上・下巻、堀田璋左右の『日本歴史及地理要覧』、邨岡良弼の『日本地理志料』、吉田東伍の『大日本地名辞書』、喜田貞吉の『地名研究について』など、いずれも一九〇〇～五年、時を同じくして数多くの上梓をみている。明治先学が残した全国的規範の、先駆的業績にはまことに敬服すべきものがある。

したがって、地名研究そのものが独立した「地名学」として、総合的な社会的地域科学であるといえるのではなかろうか。この機に明治以来の、先人が残した地名研究の成果を再吟味する必要を痛感し、入手困難の稀覯文献の復刻を企画、『地名研究資料』の続刊をみるにいたった。地名学研究の進展に夢を託してやまない。

近代地名研究資料集 全6巻

第1巻
日本歴史及地理要覧
堀田璋左右編／明治36年／日本地理歴史研究会

【内容】皇室・公家・武家・官職・国郡・社寺・交通・名蹟・雑の九項目に分かれ、特に国郡の部には延喜時代の五百九十郡、延喜以後の郡の廃置などについて詳細に網羅している。

第2巻
帝国地名大辞典 上
富本時次郎編／明治36年／又間精華堂

【内容】全国一覧的に、名勝古蹟・古戦場・城址・山陵・墓碑の五項目に分類し、五十音毎に編纂。末尾に項目別の字画索引を付している。

第3巻
帝国地名大辞典 下
富本時次郎編／明治36年／又間精華堂

【内容】全国一覧的に、港湾・岬角・島嶼・海洋・暗礁・駅路・鉄道駅・神社・寺院の九項目に分類し、五十音毎に編纂。末尾に項目別の字画索引を付している。

第4巻
大日本市町村案内
大類哲夫著／昭和11年／人事興信所出版部

【内容】全国市町村別に歴史・地誌・民俗・文学・名所旧跡、あるいは名物・俚謡・人口・戸数・官衙・税務・登記学校などを網羅、巻末に総索引を付している。

第5巻
アイヌ語より見たる日本地名研究
ジョン・バチラー著／昭和10年／バチラー学園

【内容】日本地名研究案内、地名解釈の鍵

アイヌ語より見た日本地名新研究
菱沼右一著／昭和14年／中央情報社

【内容】江戸以前の東京と関八州、江戸以前の東京、地名の新研究、北海道樺太地名考

第6巻
町村名の研究
小栗忠七著／昭和28年／東京日日新聞社

【内容】著者は早くから地名について研究し、終戦後、日本を再建するためには、まず市町村の一大再編成する必要を提唱。主に用字と発音について、実例を中心に解説。

第1巻 日本歴史及地理要覧

六 交 通

第一 鎌倉時代の東海道驛名（近江美濃を經て）

野路 近江國栗太郡草津村の南、老上村大字野路
篠原 野洲郡篠原村大字大篠原
鏡 蒲生郡鏡山村大字鏡
小脇 蒲生郡中野村大字小脇
小野 阪田郡鳥居本村大字小野
箕浦 仝 郡息長村大字箕浦
野上 美濃國不破郡關ヶ原村大字野上
垂井 仝 郡垂井町
青波賀 不破郡青墓村

笠縫 安八郡北杭瀬村大字笠縫に近く宿地てふ地
黒田 尾張國羽栗郡黒田村
小熊 小隈とも書す、今不明
下戸（オリツ） 尾張國中島郡下津村
萱津 海東郡萱津村
矢作（ヤハギ） 三河國碧海郡矢作村
豐河 豐川の北岸（昔）
橋本 遠江國濱名郡新井町
引馬 仝 郡濱松町

六交通 第一 鎌倉時代の東海道驛名

三七三

第4巻 大日本市町村案内

ナ 奈良（奈良市・生駒郡）

奈良市（大和國）

戸數…一八四〇 郵集…奈良
人口…五五九六 警察…奈良
税務…奈良 登記…奈良區
徴兵…奈良聯隊區管轄
下車…關西本…奈良驛（櫻井…京終驛）

地誌…古へ寧樂又は平城と稱す青丹によし奈良都と云はる元明天皇和銅三年西郊生駒郡都跡村大字二條に遷都遊ばされ爾來七代七十四年の帝都にて飛鳥朝の文化を現出す桓武天皇延暦三年山城に遷都後次第に衰微す後春日神社東大寺等の社寺領となり平安の都に對し南都と呼ばる天正十三年豐臣秀長の郡山城主となるや奉行所を置く秀長家康に滅されてより市店殷賑を加へ區内を二百六十に分ち屋地米を課す寛永十一年家光之を免ず維新前柳澤氏十萬石の封領に屬す明治三十一年市制施行せらる

名所…官幣大社春日神社・縣社手向山神社・同湊國神社・奈保山東陵・奈保山西陵・佐保山東陵・佐保山南陵・春日率川坂上陵・三笠山の古墳・養老ヶ峰・多聞山・天興寺・興福寺・新藥師寺・東大寺・般若寺・法隆寺・蓮長寺・奈良公園・帝室博物館・萬葉植物園・猿澤池・轉害門・正倉院・鶯塚の古墳 **俚謡**…奈良小唄・奈良行進曲・奈良音頭

名物…奈良漬・あられ酒・青丹よし（菓子）燈燒（同）大佛餅・わらび餅・奈良酒・奈良人形・奈良彫猩々・鹿の角細工・春日杉細工・奈良筆・奈良扇子・奈良團扇・奈良墨・打刄物・麻布・蚊張・奈良漆器（根來塗）赤膚燒

旅館…いろは（電七三三）春日野茶寮（電四六二）かまや（電八二九）。紺佐（電長二六九）。魚佐（電一〇四）。新温泉（電三四〇）。菊水樓（電三五）紀の國屋（電六二）四季亭（電三三二）玉や（電五三二）枕流亭（電一五三）三陽（電一五三）月の家（電一二三）月日亭（電長一〇四）奈良ホテル（電一五三）松利亭（電六六）むさし野（電長七二〇）

官衙…帝室博物館・大藏省預金部出張所・奈良税務署・奈良聯隊區司令部・歩兵第三十八聯隊・奈良憲兵分隊・奈良陸軍病院・奈良地方裁判所・奈良區裁判所・奈良供託局・奈良刑務所・奈良營林署・奈良縣廳・奈良警察署・巡査教習所・農事試驗場分場・蠶業取締所・農産物檢査所・縣立奈良病院・商工館・奈良市役所・職業紹介所・美術工藝研究所・縣立奈良圖書館・東大寺圖書館・奈良濟美圖書館・石崎文庫・佐保川病院 **郵便局**…奈良局・奈良高畑局・同東向局・同元興寺局・同今小路局・同船橋局・同下御門局 **學校**…尋高（奈良第一・奈良第二・奈良第三・奈良第四）奈良第五高・奈良女高師附屬・師範附屬・女子師範附屬・奈良女子高等師範・奈良女高師附屬高女・奈良女高師附屬實科高女・縣奈良師範・同奈良女子師範・縣立奈良中學・同商業・同盲啞學校・私立昭和法制學校・同金鐘中學同奈良育英高女・同裁縫女學校・同奈良山口裁縫女學校・同華嚴宗勸學院・同佐保女學校・同奈良專修女學校・同正氣書院商業學校

運送…京終合同運送㈱（電四〇八）・奈良合同運送㈱

（町名）

阿字萬字町 油阪町 油阪地方町 池之町 井上町 今小路町 今在家町 今辻子町 今御門町 陰陽町 大森町 奥子守町 奥芝町 押上町 押小路町 肘塚町 鵲町 春日野町 上三條町 川上町

北半田西町 北半田東町 北袋町 北風呂町 北御門町 北向町 北室町 紀寺町 京終地方西側町 京終地方東側町 公納堂町 興善院町 光明院町 小川町 小太郎町 後藤町 小西町 阪新屋町 三條町 芝新屋町

高天市町 高御門町 多門町 樽井町 中院町 築地ノ内町 角振町 角振新屋町 椿井町 鶴福院町 手貝町 寺町 中新屋町 中筋町 中辻町 中御門町 内侍原町 鍋屋町 奈良阪町 鳴川町

北市町 北魚屋西町 北魚屋東町 北川端町 北京終町 北小路町 北半田中町 川久保町 川ノ上町 川ノ上突拔町 瓦堂町 元興寺町 漢國町 元林院町 畑中町 花芝町 花園町 馬場町 林小路町 半田突拔町 半田開町 半田横町 般若寺町 東包永町 東木辻町 東笹鉾町 東城戸町 東新在家町 東寺林町 東ノ阪町

勝南院町 菖蒲池町 水門町 杉ヶ町 雑司町 高畑町 高天町 芝突拔町 芝辻町 下三條町 下御門町 十輪院町 十輪院畑町 宿院町 東向北町 東向中町 東向南町 毘沙門町 福智院町 不審ヶ辻子町 船橋町 坊屋敷町 法華寺町 法蓮町 本子守町 大豆山町 大豆山突拔町 餅飯殿町 藥師堂町 柳町

西新屋町 西寺林町 西之阪町 西御門町 納院町 登大路町 橋本町 西包永町 西木辻町 西紀寺町 西笹鉾町 西城戸町 西新在家町 西新在家號所町 油留木町 脇戸町 三棟町 南市町 南魚屋町 南京終町 南城戸町 南新町 南中町 南半田中町 南半田西町 南半田東町 南袋町 南風呂町 南法蓮町

生駒郡（大和國） 奈良聯隊區管轄

安堵村
戸數…七二六 郵集…安堵
人口…三七六六 警察…龍田
税務…奈良 登記…奈良區龍田

七五七

第2巻 帝国地名大辞典 上

名勝古蹟

あ部

安樂行院址（アンラクギヤウヰンシ） 京都府 山城國京都市上京區拝明院址を見よ、今紀伊郡深草村に院の遺名を傳ふ、後光嚴帝御葬の頃移したるか、

粟田院址（アハタヰン） 京都府 山城國京都市上京區粟田口町の北にて平安神社の南をさす、舊藤原良相の山荘にて、清和天皇此に御し後圓覺寺となす、現に二條筋廣道の西に圓覺寺の字存すさなり、寺址に塚墳と稱するものあり、こは平家物語に、平治元年の亂に義朝亦道名を得て梟首せられ、此に葬るとあるもの是乎、又保元物語に、保元々年六條判官爲義戰敗れ、東走せんとして病みて行く能はず、黒谷に抵り薙髪したるを、嫡子義朝々命巳むを得ず遂に之を殺し、幼兒乙若、龜若、鶴若、天王の四人をも殺し此に合葬すとあり、或は此荒墳と稱するもの乎、

在原業平宅址（アリハラナリヒラノタク） 京都府山城國京都市上京區御所八幡町なる御所八幡宮の西をさす、

曙櫻（アケボノザクラ） 京都府山城國京都市上京區鞍馬口通小山口なる臥龍庵に在り、後水尾帝の御製に「かすみ行く松は夜ふかき山の端にあけぼのいそぐ花の色かな」の一首によりて名づけらるゝとぞ、

綾小路宮址（アヤノコウヂミヤ） 京都府 山城國京都市下京區なる小坂殿址の別稱なり、

有栖川殿址（アリスガハドノ） 京都府 山城國葛野郡下嵯峨村に在り、有栖川とは齋院のおはします本院の傍を流るゝ小川なり、應永中伏見宮の祖大通院榮仁親王 後崇光院貞成親王此に御し有栖川殿と云ふ、榮仁親王は 崇光帝の御子にして、應永十年斯波義重の嵯峨有栖川の山荘に移す、二十三年薨ず年六十六、其の子貞成親王即ち 後崇光院なり、

嵐山（アラシヤマ） 京都府山城國葛野郡松尾村大字上山田に屬す、此地春花秋葉倶に絶勝にして、全山樹木鬱蒼として峰巒温乎たり、山下は白沙青苔淵水清らかに、所謂水明山媚の境たり櫻花は古來より有名なるものにて、昔時 龜山上皇吉野の花を移植せられしものとぞ、山下一帶の清流は大堰川と稱し、淵となり灘となり潭となる 即ち嵐峽なり、今附近の勝を擧ぐれば、渡月橋は三軒屋の下方より法輪寺の山下に達するものに、長虹一帶碧流に架す、千鳥淵は橋の上流三丁許に在り、淵上の石を身投石と云ふ、むかし横笛、瀧口時頼を慕ふて三寶寺に至り、逢はざるを恨みて投身したる處と傳ふ、又戸難瀨瀑及び瀑上の淺黄櫻の巨樹は共に著名なり、大悲閣の西北山麓には鑛泉場あり、慢性僂痲質私に適すと云ふ、通常三軒屋の前より舟を傭ひ、嵐山の風光を賞するもの此鑛泉場を以て限りとす是より以上を保津川の急流とす、（保津川奇景參看）又三軒屋は大堰川の清流に臨みて亭屋を置く、即ち雪月花の三樓を稱するなり、嵐山の櫻花を賞するもの皆此に諸賓を辨ず、櫻は山河襟帶絶佳の地を占むるを以て 四時の遊客絶えず、古來文士の詩文和歌頗多あれど

名勝古蹟 あ

62

第5巻 アイヌ語より見たる日本地名研究

ASAMA-YAMA（長野縣）

淺間山

此の名稱は「底なし山」の意であります。即ちAsama は「底なし」で、yama は「山」で、「底なし山」となります。之は淺間山の噴火口が余りに深く、底なきが如く見えるため付けたる名稱であるか、又再三噴火するところから、「底知れぬ」と言ふ意より付したものなりや不明なるも、何れの點から考へても、Asama-yama は當を得たる名稱でありませう。

（參考） Dobrotworskij著(1875) アイヌ、ロシヤ語辭典にも Asama は「底なし」と記されてあります。

近代地名研究資料集 全6巻

池田　末則 編・解説

A5判／上製函入／クロス装　揃定価107,000円（税別）

第1巻　日本歴史及地理要覧　定価12,500円（税別）　ISBN4-87733-273-1
第2巻　帝国地名大辞典　上　定価20,000円（税別）　ISBN4-87733-274-X
第3巻　帝国地名大辞典　下　定価26,000円（税別）　ISBN4-87733-275-8
第4巻　大日本市町村案内　定価30,000円（税別）　ISBN4-87733-276-6

●第1巻～第4巻　平成17年6月25日刊行　ISBN4-87733-277-4（セット）
第一回配本　全4巻　揃定価88,500円（税別）

第5巻　アイヌ語より見たる 日本地名研究
アイヌ語より見た 日本地名新研究　定価11,000円（税別）　ISBN4-87733-278-2
第6巻　町村名の研究　定価 7,500円（税別）　ISBN4-87733-279-0

●第5巻・第6巻　平成17年8月25日刊行　ISBN4-87733-280-4（セット）
第二回配本　全2巻　揃定価18,500円（税別）

地名研究資料集 全五巻

池田　末則・鏡味　明克・江端真樹子 編集・解説

第一巻　日　本　定価20,000円（税別）　ISBN4-87733-184-0
第二巻　大和国　一　定価13,000円（税別）　ISBN4-87733-185-9
第三巻　大和国　二　定価14,000円（税別）　ISBN4-87733-186-7
第四巻　大和名所図会ほか　定価21,000円（税別）　ISBN4-87733-187-5
第五巻　万葉集　定価22,000円（税別）　ISBN4-87733-188-3

揃定価90,000円（税別）　ISBN4-87733-183-2（セット）

地名伝承学論 増訂

池田　末則 著　定価12,000円（税別）
奈良地方の古代地名を発掘し、地名の起源を論ずる大著。

全国市町村便覧 全5巻

広瀬　順皓 編・解説

❶全国市町村便覧　大正二年版
❷全国市町村便覧　大正七年版
❸全国市町村便覧　大正十四年版
❹全国市町村便覧　昭和十年版
❺全国市町村便覧　昭和十六年版

揃定価90,000円（税別）　ISBN4-87733-193-X（セット）

KRESS 株式会社クレス出版　〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14-5　メローナ日本橋
☎03-3808-1821　FAX03-3808-1822　http://www.kress-jp.com/